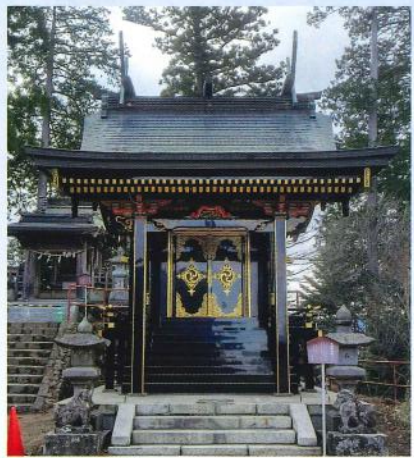


社殿修理報告

旧本殿「常磐堅磐社」

昨年六月より行って参りました旧本殿「常磐堅磐社」の漆塗り替え工事が、東京都と青梅市からの補助と崇敬者様のご奉賛等により、日光市の榎鈴木美術漆工芸の匠技にて、この三月お陰様で無事完了致しました。約十ヶ月を要し丁寧に塗り替えられ、公儀普請を反映した美しく壮麗な社殿が往事の姿でよみがえりました。

この旧本殿は昭和二十三年、国の重要美術品に指定、昭和二十七年には東京都有形文化財に指定されました。一間社流造、檜皮葺銅板葺で間口2.5m、奥行214m、基壇は壇上積、屋根には鬼板付箱棟に千木と堅魚木を配し、彩色は黒漆塗を基調として弁柄漆塗と金箔を用い、飾り金物を多用した華麗な建造物で、都内では数少ない桃山様式を留める本殿建築の一つです。現在の本殿（神明造）を明治十年に造替したために、常磐堅磐社として現在の場所へ移築されました。旧本殿には、永正八年（一五二一年）に三田弾正忠氏宗・政定が修復した棟札が残り、慶長十一年（一六〇六）に徳川家康により再建した事を記す鏡台の墨書銘、元禄十三年（一七〇〇）五代将軍綱吉による改修の棟札が残されています。昭和五十四年の三月の大風で西側の大杉が倒れ破損したため、昭和五十八年東京都により修理工事が行われております。全国一の公儀普請の優れた本殿建築「旧本殿」は境内玉垣内にご覧いただけます。全国の宮の神様をお祀りしておりますので、是非ご参拝下さい。



旧東照社「皇御孫命社」・「東照社」



東照社 土台部分腐朽修理工事

令和元年十一月より、皇御孫命社および東照社の腐朽修理工事を青梅市の補助を受け行いました。木工事部分には漆も施し一新致しました。この修理工事で皇御孫命社の浜床の腐朽が屋根からの雨漏が原因であることが解つたため、急遽神社では、令和二年春より屋根旧工事をを行うこととなりました。銅板の下はかなりの腐朽・亀裂が進んでおり、

屋根部分を半解体して工事を進める事となりました。この社はずから東照社として元禄十三年に造営した記録が棟札に残ります。「新編武蔵風土記稿」には「檜皮葺高欄造」で「御紋散して廻り三間四方の朱塗りの瑞籬を構へり」とあります。工事前は瓦葺銅板葺で複雑な屋根の軒先に三葉葵の紋が配されていました。江戸末期に瓦葺葺きに変えたものと思われ、今回の修理では、雨漏りの原因となった瓦葺葺きを応急処置的に平葺きに変更しましたが、建設当初の面影をうつす形となり、重厚な趣のある皇御孫命社（東照社）となりました。常磐堅磐社の右前に鎮座し、現在は天瓊々杵命をお祀りしています。門の前には珍しい狛猪が置かれています。



皇御孫命社

灯籠奉納

多くの方にご奉納いただき、参道銅鳥居に八基建立させていただきます。厚く御礼申し上げます。

- 野島重好
関内馬車道デントアルオフィス
河合毅師
川崎市多摩区長沢講
講元・世話人の皆様
町田・多摩・小野路講の皆様
(株)多摩ニュータウンサービス
横浜茅ヶ崎御嶽講
岸 純一・敏子
有限会社 金咲通産
代表取締役 金崎 強
令和二年二月一日、
令和三年一月三十一日
(一万元以上順不同 敬称略)
有限会社 アクア・サポート・スタッフ
今村 穰
元山剛史
安藤 敏
安藤利枝
坂本宗司
田中大介
フォーーク居酒屋 華當

奉納

- 令和二年二月一日、
令和三年一月三十一日
(一万元以上順不同 敬称略)
倉重美喜
村野英夫
神山友和
S H I デンタルクリニック
有限会社 サンベアー
進藤喜一
清水正晴
野嶋和之
白井 旭
株式会社 野島商事
野島光伸
濱中満江
小野源一
林 正記
寛麗会
宇田川洋子
大口 眞
井口三月
天野光紘
中島昇一
十条御嶽講
深井 明
中村浩義
有限会社 スペースシップ
梅原英明
成田八重子
有限会社 小町建築設計事務所
小町幸生
相山美雄
大数龍二郎
元山剛史
金井益雄
齋藤

敬神奉賛員大祭のお知らせ

昨年予定しておりました、「敬神奉賛会設立奉告祭」ですが、社会情勢が落ち着く状況となりましたら、今年十月に会員の皆様にご参集頂き、祭典を執行後、会食にて親睦を深める会を催すべく計画をしております。八月頃にはご案内をお送りする予定です。また、年会費のお支払いが済みでない方は、お納め頂きましたら幸いです。
日時：令和三年十月三日



常磐堅磐社

敬神奉賛員募集のご案内
当社では、敬神奉賛員を募集しております。敬神奉賛員とは、御嶽大神の御神徳を敬い、皆様の心の拠りどころとして、また武蔵御嶽神社の更なる護持発展を目的に創設いたしました。奉賛員には例祭、祭典・行事のご案内のほか、新年に向けての御神札など各種の特典が受けられます。趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいませようご案内申し上げます。
賛助費 五〇〇〇円
※詳しくは、社務所までご連絡下さい。

太々神楽奏上

昨年は残念ながらコロナ禍において太々神楽を奏上することが出来ませんでした。一日も早く事態が収束し、太々神楽の笛や太鼓の賑やかな音が境内に響く日が待たれます。
神楽と雅楽の一般公開(神楽殿・十一時開演)
六月・十月 第三日曜日
夜神楽(神楽殿・夜八時開演)
六月・十一月 第四日曜日

注連縄 奉納

昨年暮れに、拜殿正面を飾る大注連縄等を、「御々講 麻問屋 麻光」様よりご奉納いただきました。誠に有難うございました。

桜苗木 奉納



拜殿前

本年も「多摩の桜をつなぐ会」様による、「山桜」の植樹が行われました。大きく育ち満開の桜が見られるようになるのが楽しみです。毎年ご奉納いただき誠に有難うございました。